



学校だより4月号

令和4年4月7日

横浜市立六つ川小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/>

学校教育目標

みんなでチャレンジ 六つ川の子
(地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。)

輝ける子ども達の育成を目指して

学校長 妹尾 正彦

先月行われた第54回卒業証書授与式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生とその保護者各家庭1名の参加で行われましたが、大変素晴らしい式を卒業生達は作り上げてくれました。6年間の小学校生活の集大成としての思い、身に付けた力と自信が一人ひとりの児童から感じられる式でした。私はその中で卒業生に次のような話をしました。

皆さんへの最後の話として、高杉晋作という幕末に活躍した志士が詠んだとされる

「面白き事もなき世を 面白く、すみなすものは心なりけり」という句を送ります。

「面白いと思えることのない世の中を面白くするのは自分の心次第だ」という意味です。

私が30年間中学校の教員として働いてきた中で出会った8千人近い生徒の中には、「中学校の授業は難しくて楽しくない。ルールも厳しくて、つまらないし、つらい」という生徒も確かにいました。

しかし、同じ学校生活を送りながら、多くの生徒は「大変なことも色々あったけど、充実していて楽しかった」と言って卒業していきました。そういった生徒は、中学校生活の中で何か「本気で頑張れる」ことを見つけて取り組んでいたように思います。部活動であったり、委員会活動であったり、学校行事であったり。必ず自分で何かに本気で取り組んでいたと思います。

今年度の六つリンピックのソーラン節を思い出してください。練習スタート時は、どこかやらされている感があり、つまらなそうに踊っていた人もいたように思います。

しかし、筋肉痛で苦しみながらも、日々練習を繰り返すうちにいつしか本気になり、踊ること自体が嫌でなくなり、やり遂げた後の大きな達成感を味わえた人も多かったのではないのでしょうか。そして今振り返ると、「楽しかったな」と思えたり、よい思い出になっているのではないのでしょうか。

学校生活も自分の人生も同じです。誰かが楽しくしてくれるのではなく、楽しくできるかどうかは自分次第なのです。ぜひ「本気で頑張れる」何かを見つけて下さい。そのためには何事にもチャレンジしていく姿勢が大切です。チャレンジしていくことで始めて「自分が本気で頑張れるもの」は見つかります。

ただ、チャレンジの多くはまずは「失敗」があるでしょう。そこであきらめるのではなく、原因を考えたり、取り組み方を変えたりしてチャレンジし続けることで、「成功」が生まれます。そして生み出された「成功」だからこそ、自分の成長が感じられて嬉しかったり、自分への自信にもなります。そして自分への自信は、他人への優しさへと繋がり、自分を内面から輝かせてくれます。

六つ川小学校で学んだチャレンジしようとする精神を大切に、自らの生活を楽しく充実させると共に、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、たくましく優しい素敵なお大人になってください。

令和4年度、六つ川小学校は64名の新1年生を迎え、全校児童370名でスタートします。

今年度も、六つ川小学校では「みんなでチャレンジ 六つ川の子」をテーマにあらゆる場面で効果的な教育活動を進めてまいります。内面から輝ける子ども達の育成のため、保護者・地域の皆様とともに、教職員一同、全力を尽くしてまいります。今年度も本校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。